

P2 南海トラフにおける海底地殻変動観測の今後の展開について

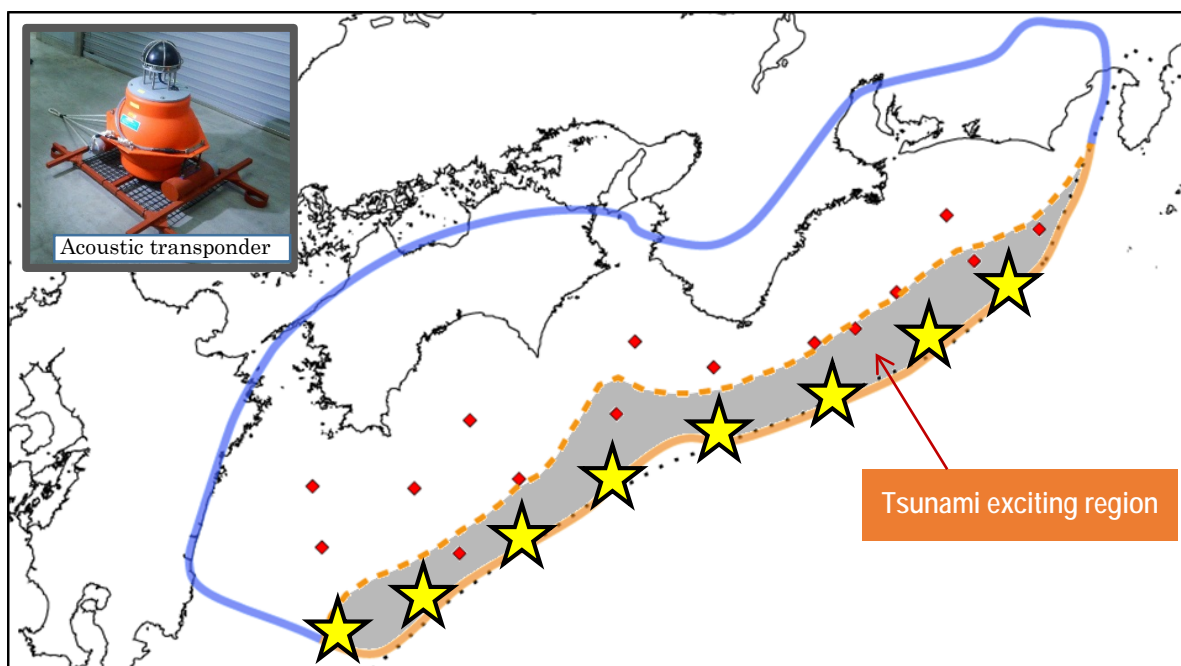
河合 晃司*1, 海底地殻変動観測チーム

*1 海洋調査課 海洋防災調査室

海上保安庁では、南海トラフ沿いに15局の海底基準局を設置し海底地殻変動観測を実施しています。この成果として、南海トラフのすべり欠損域が1940年及び1942年の東南海・南海地震の震源域を超えて広がっていること、また、同海域においてはすべり欠損の大きさが場所により異なることなどを明らかにしたほか、一部の測点において非定常的なゆっくりすべりが発生したことを検出するなど、大きな成果を得ています。

しかしながら、現在の海底基準局の局配置では、南海トラフ地震の想定震源域の南部の海溝軸付近については、観測点が存在せず、観測の空白域となっています。東北地方太平洋沖地震の際には、海溝軸付近において大きな地殻変動が発生し、それが大津波の発生源となったことが指摘されており、南海トラフについても海溝軸付近の空白域での海底地殻変動観測の重要性が指摘されていました。

こうしたことから、海上保安庁では平成31年度、32年度の2カ年で南海トラフの海溝軸付近に海底基準局を新たに8局設置し、観測を開始することを計画しております。これにより、南海トラフの想定震源域を海溝軸付近までしっかりとカバーすることが可能となり、観測の空白域を解消するとともに、南海トラフ地震の想定震源域全体のすべり欠損の状況の推定や想定震源域において発生する非定常的な地殻変動の全体像を把握することが可能となり、東南海・南海地震の防災対策等に今まで以上に寄与することが期待できます。



★ : New seafloor station (Provisional)